



2024年5月31日

各 位

会社名 エンシュウ株式会社
代表者名 代表取締役社長
社長執行役員 鈴木 敦士
(コード：6218 東証スタンダード)
問合せ先 経営管理本部
経営管理本部長 大野 裕哉
(TEL. 053-447-2111)

新中期経営計画および新長期ビジョン策定に関するお知らせ

当社は添付の通り、2024年度から2028年度までの5か年における中期経営計画「Make a New Enshu」及び新たな長期経営ビジョン「Make a New Enshu for the World's Manufacturing」を策定いたしましたのでお知らせいたします。

1. 新長期ビジョン

Make a New Enshu for the World's Manufacturing

私たちは3つの挑戦により、世界のモノづくりに貢献します

1. 社員一人一人が新しいモノづくりに挑戦します
2. 常により高いレベルの品質とコストに挑戦します
3. 3事業のシナジー発揮に挑戦します

(部品加工事業、工作機械事業、システムインテグレーター事業)

2. 新中期経営計画方針

Make a New Enshu：新しいエンシュウを作り上げていく

- ・売上高重視から利益額重視へ（2年間で盤石な利益体質へ）
※両部門の売上高に合わせ、人的資源を機動的に配分
- ・部品加工事業の拡大強化
※経営資源（人、モノ）を投入
工作機械のノウハウを活かし、最新の部品加工ラインを構築
- ・工作機械事業はEVおよび自動車以外の新市場へ拡販
※部品加工で培った最先端の加工ノウハウも販売

3. 財務目標（2028年度）

- ・売上高：380億円
- ・営業利益：29億円
- ・ROE：12%以上
- ・PBR：1.3倍（PBR1倍は2026年度達成の計画）

その他、目標達成に向けた各戦略や資金計画については添付資料をご覧ください。

以上

中期経営計画 (2025年3月期～2029年3月期)

Make a New Enshu



目次

(1) エンシュウの目指す姿

- 1.経営理念
- 2.新長期ビジョン
- 3.サステナビリティ基本方針・今後の取組み

(2) 新中期経営計画

- 1.背景
- 2.前中期経営計画の振り返り
- 3.新中期経営計画 方針
- 4.新中期経営計画 戦略
 - 4-1. シナジー戦略
 - 4-2.自動化・省人化戦略 (SIer戦略)
 - 4-3.部品加工戦略
 - ①営業戦略
 - ②EV部品加工/サプライヤー化/スマートファクトリー

4-4.工作機械戦略

- ①営業戦略
- ②海外展開
- ③新市場への挑戦

- 5.カーボンニュートラル
- 6.人的資本投資
- 7.デジタルトランスフォーメーション
- 8.新中期経営計画 (財務目標)
- 9.資金計画 (キャッシュアロケーション)
- 10.株主還元
- 11.新中期経営計画の目指す姿

(1) エンシュウの目指す姿

1.経営理念

経営理念

売ってよろこび 買ってよろこび 作ってよろこび
一生懸命につとめ 共生共栄を旨とする

2.新長期ビジョン

Make a New Enshu for the World's Manufacturing

私たちは3つの挑戦により、世界のモノづくりに貢献します

1. 社員一人一人が新しいモノづくりに挑戦します
2. 常により高いレベルの品質とコストに挑戦します
3. 3事業のシナジー発揮に挑戦します
(部品加工事業、工作機械事業、システムインテグレーター事業)

3.サステナビリティ基本方針

私たちエンシュウは経営理念にもある“共生共栄”の考えに基づき、“ものづくり”で培った技術力をもって、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、企業価値の向上を目指します。

これを実現するために私たちは、気候変動などの地球環境問題、人権の尊重、従業員の健康・労働環境や公正・適切な処遇、取引先との公正・適正な取引、地域社会への貢献、自然災害等への危機管理などサステナビリティを巡る課題に対して、積極的に取り組みます。

この取り組みを行うにあたり、私たちは、中長期的な視点から企業活動を通じ実践すべき主要テーマとして、5つの項目を掲げます。

■主要テーマ

- ①お客様の環境負荷低減に向けた製品やサービスの提供
- ②自社工場等の環境負荷低減
- ③地域社会への貢献
- ④女性活躍の推進・働きやすい環境づくり
- ⑤自然災害等への危機管理の徹底

(2) 新中期経営計画

1.背景

当社は、中期経営計画（2021－2025年度）の推進を行ってまいりましたが、以下の理由により、この度新中期経営計画を策定し再始動することといたしました。

1.外部環境変化

- ・社会課題：労働力不足の加速、気候変動への対応（カーボンニュートラル）
A I の出現を含めたITテクノロジーの進化
- ・工作機械事業：国内EV化投資本格化の遅れ、エンジン投資停滞
- ・部品加工事業：四輪・二輪業界の部品加工外転化

2.市場再選択

- ・2023年10月に東証プライム市場からスタンダード市場移行
- ・売上高重視→利益額重視



新中期経営計画（2024－2028年度）

2.前中期経営計画振り返り

■ 損益目標（連結）

2023年度目標 売上高：300億（工機180億、部品120億）、営業利益率5%

■ 2023実績（連結） 売上高：241億（工機117億、部品123億）、営業利益率：2.2%
（工機▲0.8%、部品4.8%）

■ 成果

【工作機械】

- ・海外企業との提携（SW社、リンカーン社）
- ・商社関係強化
- ・保守サービス部門の拡大

【部品加工】

- ・部品加工売上・利益拡大

【全社】

- ・SIer子会社設立（ECC）

■ 課題

- ・市場開拓（EV、医療向け等）
- ・外部環境変化に対応した開発 ※市場ニーズに合った新機種開発
- ・営業力の強化
- ・経営資源配分の適正化
- ・工場の自動化推進

3.新中期経営計画 方針

Make a New Enshu : 新しいエンシュウを作り上げていく

- ・**売上高重視から利益額重視へ（2年間で盤石な利益体質へ）**

※両部門の売上高に合わせ、人的資源を機動的に配分

- ・**部品加工事業の拡大強化**

※経営資源（人、モノ）を投入

工作機械のノウハウを活かし、最新の部品加工ラインを構築

- ・**工作機械事業はEVおよび自動車以外の新市場へ拡販**

※部品加工で培った最先端の加工ノウハウも販売



2028年度目標
売上高：380億円
営業利益：29億円
ROE：12%
PBR：1.3倍

4.新中期経営計画 戦略

新中期経営計画 戦略

4-1. シナジー戦略

4-2. 自動化・省人化戦略 (SIer戦略)

4-3. 部品加工戦略

① 営業戦略

② EV部品加工/サプライヤー化/スマートファクトリー

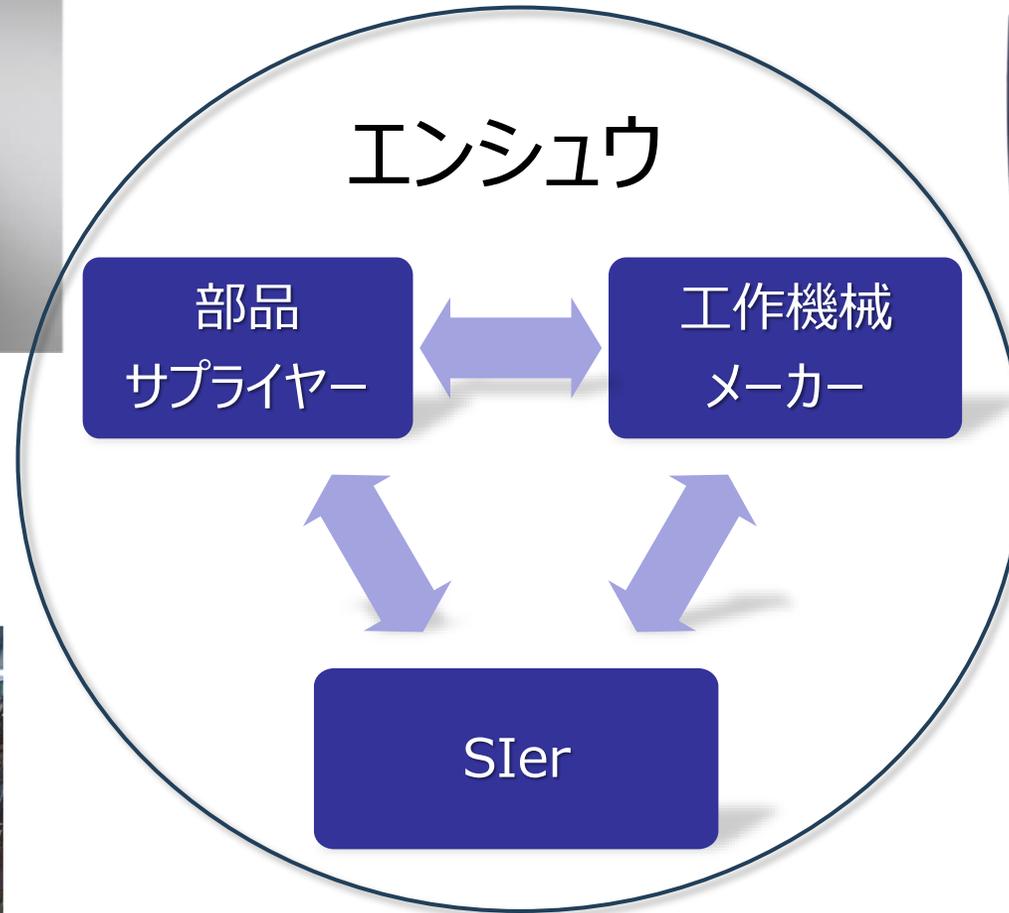
4-4. 工作機械戦略

① 営業戦略

② 海外展開

③ 新市場への挑戦

4-1. シナジー戦略



※SIer : システムインテグレーター
(省力化、自動化を提供)

4-1. シナジー戦略

• **部品加工事業**：効率化、スマートファクトリー化
工作機械のノウハウを活かし、最新の部品加工ラインを構築

自動化省人化技術
(繋ぐ技術、IoT)

加工ノウハウ、工場実績

加工技術、自動化省人化

• **工作機械事業**

部品加工事業で培った最先端の加工ノウハウの提案
客先ニーズに合った自動化・省人化のモノづくりを提案

システム構築技術
設備機械

自動化省人化技術
(繋ぐ技術、IoT)

加工ノウハウ、工場実績

• **Sier事業**

市場ニーズに合わせた自動化、省人化技術を自社部品加工事業へ展開

4-2.自動化・省人化戦略（SIer戦略）

労働力不足への対応

ロボットによる自動化、DX（IoT）による情報清流化

1.自社工場の自動化・省力化→工場ショールーム化（スマートファクトリー）

- 自動化：ロボットシステム活用（多種少量生産にも対応）
- 検査の自動化：自動検査、画像検査、トレーサビリティ
- 工場内物流自動化

2.工作機械事業：自社工場での実績を経た最適生産ラインの外販

- ロボットによる汎用機自動化システム
- 切削加工、検査、搬送システム、DXまでを一気通貫提案
- トレーサビリティシステムの提案

EV、内燃機関、新領域 3本柱での売上拡大

1. EV部品

受注・生産実績を前面に押し出した営業PR (バッテリー・モーター部品)
内製素材 + 機械加工の粗加一貫提案による受注拡大

2. 内燃機関部品

培った内燃機関部品への技術力を強みに四輪・二輪業界での外転化に対応

3. 新領域へ挑戦

非自動車部品へ参入拡大 (建機、半導体装置メーカーなど)
部品加工部の設備をフル活用 (大物部品・小ロット部品・高付加価値部品)

4-3. 部品加工戦略② (EV加工/サプライヤー化/スマートファクトリー推進)

生産対応能力、品質、コストの技術力向上

■ EV部品加工

1. 新工法加工の受託 (テクニカルセンターで工法開発)

レーザー加工技術 (リンカーン社協業) によるアルミ高速高品位溶接、FSW加工技術を生かした新工法の受託

2. SW社との協業効果

多軸加工機による大量生産対応、ギガキャスト製品加工

■ 製造サプライヤーから総合サプライヤーへの転身

総合サプライヤー化へ向けた試作・評価の強化

■ スマートファクトリー推進

ターゲットユーザー毎の部門編成とし受注拡大

- **直販営業** : ユーザーニーズに対応したオーダーメイドシステム販売
 - EV戦略 : 当社機 (単軸) とSW機 (多軸) のコラボレーション販売 (インテグレーション含む)
 - ※ 欧米・中国で実績のある大型部品加工用SW社製品用いたシステム提案
 - 既存機の改造対応 (生産品目の変更(内燃機関からEV他)にも対応)
 - 半導体・医療業界への取組強化
 - ※ 医療分野・歯科加工機の委託製造開始、保守サービスも展開予定
- **商社営業** : 商社を起点に中堅・中小ユーザーへの営業実施
 - ユーザーニーズに対応した自動化(省人化)パッケージ商品販売
- **サービスセンター** : 点検活動による、修理、オーバーホール作業の受注拡大
 - 通常修理の迅速対応によるお客様満足度向上と売上拡大

成長市場への積極投資

1. 米国・メキシコ市場

- ・メキシコ、米国、カナダ市場への販売強化
- ・メキシコ
 - ・インシュウUSA傘下に現地法人設立
 - ・販売、サービス強化の為、現地エンジニアリング会社との協業

2. インド市場

- ・当社の蓄積された加工技術による提案を行い拡販
- ・商社との連携強化による市場拡大
- ・二輪四輪（EV含）市場への拡販

4-4. 工作機械戦略③ (新市場に向けた工法・機械開発)

テクニカルセンターを活用した新工法開発と 新市場に向けた機械開発

1. EV戦略：部品の軽量化（アルミ化）・大型化に対応

- ・ギガキャスト・バッテリーケースに対応した切削・溶接のシステム開発
- ・リンカーン社と協業し、高速アルミレーザー溶接システムを開発

2. 半導体/医療

- ・医療分野・歯科加工機の委託製造開始、保守サービスも展開予定
- ・脆性材加工の最適工法開発と商品開発
- ・デジタルツインを用いた加工技術開発

3. 中小企業向け開発

- ・中小企業向け自動化開発

4. 海外向け開発

- ・海外市場向け機械開発

5. カーボンニュートラル

自社工場、自社製品から、社会貢献へ

1. 2030年CO₂排出量原単位38%削減 (Scope1+2、2014年度比)

- ・見える化と電力削減施策の全工場展開
- ・新規生産設備へ省エネ視点折込



自社工場実績を顧客提案

2. 自社製品の環境貢献 (Scope3)

- ・開発機へ省エネ視点折込、既存機への省エネ提案 (Category11への対応)

6. 人的資本投資

企業が継続的に成長を続けるためには、従業員一人一人の成長が重要です
当社は人材育成に力を入れていきます

1. 管理職強化

- ・管理職任期制度の導入（若手の早期登用による組織の新陳代謝、活性化）

2. 教育改革

- ・自律的キャリア形成に向けたリスキリング・アップスキリング研修制度の導入
- ・チャレンジ人材定義制定による従業員育成強化

3. 従業員エンゲージメント向上

- ・メンター制度、1on1ミーティングの浸透定着

7. デジタルトランスフォーメーション（DX）

**新ERPシステム導入と掛け合わせ、業務変革を推進
営業分野での受注拡大、製造分野での競争力向上を実現へ**

- ・**基幹システム更新**：DX活用のためデータ整備
業務の清流化（業務変革）→間接部門の付加価値拡大
- ・**営業**：営業支援（SFA）プラットフォームを構築、営業活動強化
（顧客情報の一元管理/最新情報のリアルタイム反映等）
- ・**製造**：生産情報のデジタル化と見える化により、タイムリーなアクション実施
自動化と合わせ生産効率を向上
（検査業務、日報デジタル化/設備総合効率のリアルタイム出力等）

8.新中期経営計画 財務目標

- ・売上高 380億円、営業利益29億円を目指します
- ・PBR1.0倍以上、ROE10%以上を目指します(PBR1倍は2026年度達成の計画)

連結財務目標

	2023年度（実績値）	2026年度（目標値）	2028年度（目標値）
売上高	241億円	330億円	380億円
営業利益	5.4億円	20億円	29億円
営業利益率	2.2%	6.1%	7.5%
ROE	1.9%	9%	12%
PBR	0.37倍	1.0倍	1.3倍

※損益状況や社会状況によって変更となる場合がございます

8.新中期経営計画 財務目標

セグメント別目標

■ 工作機械事業

	2023年度（実績値）	2026年度	2028年度（目標値）
売上高	117億円	166億円	200億円
営業利益	-1億円	10億円	14億円
営業利益率	-0.8%	6.0%	7.0%

■ 部品加工事業

	2023年度（実績値）	2026年度	2028年度（目標値）
売上高	123億円	164億円	180億円
営業利益	5.9億円	10億円	14億円
営業利益率	4.8%	5.8%	7.8%

9.資金計画（キャッシュアロケーション）

中計期間（5カ年）累計

キャッシュイン	キャッシュアウト	内容
営業キャッシュフロー 約94億	成長投資 約60億	<ul style="list-style-type: none">・部品加工新規立ち上げ・部品加工自動化/省人化への投資・新たな技術/工法の開発
手元資金 約6億	維持更新投資 約46億	<ul style="list-style-type: none">・施設インフラ/ITインフラの整備・生産能力確保に向けた設備更新
資金調達 約24億	株主還元 約18億	<ul style="list-style-type: none">・配当性向30%※2024年～2028年度配当金累計

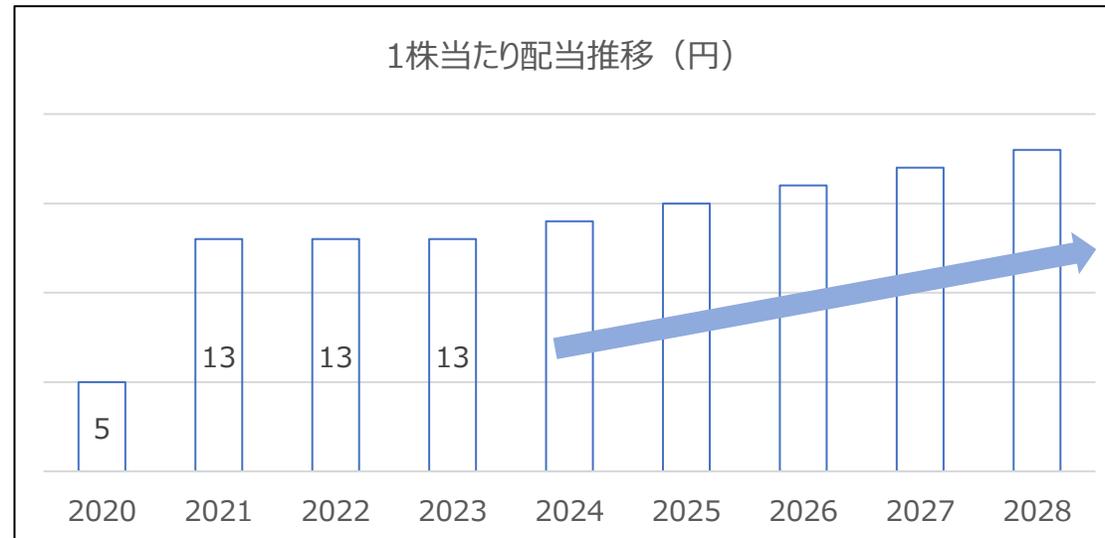
※損益状況や社会状況によって変更となる場合がございます。

10.株主還元

配当性向30%を目安とし、成長戦略への資源配分、自己資本の充実と合わせ、株主の皆様への還元の充実を図ってまいります。

	普通株式1株当たり配当金					
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2028年度
普通配当	5円	13円	13円	13円	17円	85円
配当性向	12.6%	22.1%	—	37.2%	23.8%	30%

※普通配当および配当性向については、損益状況や社会状況によって変更となる場合がございます。



11.新中期経営計画の目指す姿

Make a New Enshu : 新しいエンシュウを作り上げていく

ステークホルダー	中計要旨
お客様	<ul style="list-style-type: none">・少子化、EV化等を背景とした新しいモノ作りに貢献する「S I e r」と「工作機械メーカー」を目指します・部品加工事業「総合サプライヤー」としての付加価値提供を目指します・3つの事業シナジーを最大限に発揮するユニークな会社を目指します
投資家	<ul style="list-style-type: none">・成長戦略を絶えず見直し開示します・R O E 12%以上を目指します（PBR1倍は2026年度達成の計画）・配当性向30%以上を中期的目安としつつ安定配当に努めます
社会	<ul style="list-style-type: none">・CO2排出量38%削減を2030年度に達成します（Scope1,2について2014年度比）・地域貢献活動を積極的に推進します
従業員	<ul style="list-style-type: none">・挑戦した人が評価される制度を導入します・挑戦する人のキャリアアップを支援します・処遇の改善に努めます

本資料における注意事項

本資料に掲載されている情報には、業績予想・事業計画等の将来の見通しに関するものが含まれています。

これらの情報については、現時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を含むものです。

また当社としてその実現や将来の業績を保証するものではなく、実際の業績はこれら将来の見通しと異なる可能性があることにご留意ください。